

## 令和 6 年度第 4 回青梅市協働事業市民推進委員会会議録概要

令和 7 年 1 月 2 7 日  
議会棟第 2 委員会室  
午前 1 0 時 0 0 分～  
欠席委員：2 名

### 1 あいさつ

委員長

### 2 報告事項

#### (1) 令和 7 年度青梅市市民提案協働事業について(資料 1)

事務局から資料にもとづきスケジュールを説明

(委員長)

告知を早くしていただきたいという団体からの要望を受け、予算が確定する前ではあるが、告知可能な内容を早目に告知していると認識している。

(委員)

予算額についてはどうなっているのか？

(事務局)

担当課としては 5 事業 1 0 0 万円で予算要求しているところでございます。

(委員)

協働で事業を実施するにあたって、1 事業で最大 2 0 万円といった規模の事業は少ないと捉えている。将来的に規模や枠組みが変わることはないのか。また変えるといった発想はあるか。

(事務局)

当事業のあり方、他団体の状況等を研究して青梅市に適した事業を模索していきたいと考えています。

(委員)

この事業は「行政テーマ」「自由テーマ」という考えで実施しているが、自分の中では違和感を感じている。協働したいといった市民は増えているという感じがあるが、どのように始めたら良いのかわからない方も多いと思う。協働するにはどうしたら良いだろうか、といったことを語ったりする場を作ったり、青梅市がこれまで「協働」と捉えていたことを根本的に考え方を変

えていくことを検討していただきたい。

（委員長）

当委員会自体を見直す案を当委員会で作るといったことを考えていっても良いのではないかと。当委員会が設置された当初と現在では状況がかなり変わってきていると思う。次年度からの委員会の最初にそのような方針や方向を決めるのはいかがか。

（事務局）

委員の皆さまから多くのご意見をいただき、青梅市の方向を決めていきたいと考えております。

（委員）

当事業は新規性が重要な判断要素になっているが、毎回新しい事業を提案するのは非常に困難だと感じる。新規性が評価項目の一つであるのは理解できるが、新規性が無い事業はダメといった判断はしないでいただきたい。新規性が無いからといった理由で提案前に断られてしまったという話しも耳にする。

（委員長）

新規性はあくまでも評価項目の一つではあるが、事務局側が新規の事業を大事にしたいといった思いが強いので、実際のところは新規事業以外は受け付けないに近い状況である。

（委員）

事業は数年継続して積み上げていくことにより協働として出来上がっていくことが大事だと考えるがどうか。

（事務局）

同様の事業を実施している他の自治体では、数年間に渡って事業に対する補助を実施している例もあります。

（委員）

新しい団体や事業を立ち上げたいといった考えも理解はするが、市と団体で創り上げた事業も大事だと思う。

（事務局）

新規で実施した事業についてスタートアップの補助だけをして、その後は団体だけで実施していくのは困難であることは理解しているところでございます。

(委員長)

複数年度にわたる段階的で継続的な補助については審査も難しくはなると  
思うが、検討しても良いのではないか。

(委員)

ひとつの課題を解決しているために継続して事業を実施していく。団体も  
固定化している中で、例えばこども関係であれば「不登校」とか「乳幼児」と  
いったテーマで検討していく。協働とはそのような広がりを持てる場所だと  
考える。

(委員長)

当委員会でも色々検討し、現実的な内容に落とし込めれば良いと考える。

## (2) ボランティア入門講座について

事務局から令和7年3月14日(金)9時30分から青梅市役所で講座開  
催する旨を説明

(委員)

前回、同講座を実施した後、実際にボランティア活動を始めた方が自分の  
周りに10名程度いる。世代的には50代～60代の方が多いと思う。

(委員)

退職した方で活動したいという声は聞くが、実際にボランティア活動の始  
め方がわからない方は多くいられると思える。

(委員)

この講座がきっかけづくりになれば良いと思う。

(委員)

イベント等ごとにボランティア募集について発信したい情報がある。この  
情報の発信がどこの団体やイベント等でも課題になっていると思える。

(委員)

ボランティアの募集等、青梅ボランティア・市民活動センターにご相談い  
ただければ、広報紙やホームページでお手伝いはさせていただいている。

(委員)

ボランティア活動されている方の高齢化も進行している。若い世代の方に  
入ってきてもらいたいと考えている。

(3)青梅市協働事業市民推進委員の公募について（資料2）

事務局から令和7年2月1日号青梅市広報で公募する旨を説明

（委員長）

次期委員会は委員会設置要綱の規定に記載されているとおり、社会福祉協議会関係者2人、団体等代表者5人、公募委員3人の10名で組織できればと考えている。

### 3 協議事項

令和6年度青梅市協働事業市民推進委員会協議結果について（資料3～4）

事務局から説明

（委員長）

当委員会で協議してきた「時代の変化に合わせた自治会運営へ向けたガイドライン案」を令和7年1月14日に開催された青梅市自治会連合会支会長会議で提案させていただいた。深い話しになってしまうとのことで、当日、質疑までには至らなかった。

（委員）

個人的はこのガイドラインのとおりであると思うが、地区により温度差もあるし、自治会役員も早いスパンで変わっていつてしまう。提案内容の考え方で今後取り組んでいきたいとは思いますが、強制はできないので皆さんが当ガイドラインを見てどう思うかというところもある。昔ながらの運営ではもう立ち行かないと感じている。コロナ禍により振り出し地点よりもさらに戻ってしまった感がある。

（委員）

従前の考え方で固まっている地域の自治会がどのように感じるか。若い世代の方が役員になり、色々提案しても採用されず辞めていつてしまう地域もある。

（委員長）

当ガイドラインは一人歩きしても理解いただけるような内容で作成してある。支会単位でも自治会単位でも議論していただければと考えている。

（委員）

提案いただいた青梅市自治会連合会支会長会議の資料は、各自治会にも届いている。

(委員長)

とにかくこのガイドラインがきっかけになればと願っている。自治会には元気な組織でいてもらいたいと考えている。

(委員)

女性自治会役員の割合は地域によって違いがあると捉えているが。

(委員)

支会により違うと思うがほとんどいないのでは。

(委員長)

女性役員がいたとしても、会合や行事の際に飲み物を提供する等してもらうのみで、色々と意見を出してもらうといった感じではない。

(委員)

青梅市自治会連合会支会長会議の中の部会において女性参画の件につき議論をしているところである。

(委員)

女性の自治会長はいるのか。

(事務局)

正確な数値はただ今持ち合わせておりませんが、今年度においても昨年度においても何名かいらっしゃいます。

(委員)

まだまだの状況だと感じる。

(委員)

自治会と連携が取れていない第2層協議体もある。第2層協議体の会議で当ガイドラインを共有してよいか。

(委員)

この委員会で協議等した内容を話してよいのか。

(事務局)

議事概要として委員会での内容は資料を含めて公開されるので共有いただいても大丈夫です。

(委員長)

続いて資料4についてであるが、当委員会で議論した内容を次年度の協働事業評価シートに反映したものと捉えている。今年度行った評価では「形骸化した事業」が実際に数値としては上がってこなかったと認識している。

「形骸化」という言葉で中々点数を付けづらくなったのでは考え、文言から「形骸化」といった単語を削除し修正した。また、事業の目的等の共有は協働にとって重要な要素であることから、評価の最初の項目として設定した。

#### 4 その他

（委員長）

2年の任期の最後の委員会なので委員の皆さまから一言ずつお願いします。

（委員）

協働事業とは何なのか分かりづらいこともあった。青梅市の協働事業については正直物足りない感がある。単発でパッと終わらせるのではなく、もっと大きい規模でできるとよいと考える。

（委員）

協働は「一つの団体ではできないことができること」だと思っている。自分も行政以外の様々な団体と協働、コラボをした。協働するためにはどうしたらよいのか、まずはコーディネートをする人物が必要。行政を含めた協働する皆それぞれがウィンウィンになれるような、そんな関係性が広まっていけば文化として協働が根付くのかなと思う。

（委員）

今期の委員会では最後に形となって残るものが出来たことが非常によかったと思える。自分の所属している団体で市民提案協働事業にも提案させていただいたが、ここで市としても市民提案協働事業にかかる予算を従前の金額で復活させようとして要求しているとのこと。やはり委員会の中で「そこを減らすのはダメなんじゃないか」といった議論をしたことも大きかったのではないかなと思う。委員会だけの話しでは無いが、皆で話し合いながら進んでいくことの大切さを改めて感じた。

（委員）

この2年間委員として参加する中で色々と学ぶことが多かったと感じている。今後も引き続き、地域の活動団体や自治会の皆さまと協力して、ボランティア・市民活動センターとしての役割を強化していきたいと思っている。

（委員）

文化関係の活動において、協働は必須であり、一人では何もできない分野である。同じテーマを楽しみ、同じ目標・方向を見据えて共に進んでいきたいと考えている。誰もが意見を発することができる場を作り、自由な発想で協働を進める場が必要である。そうした場がなければ、大きな変革は難しいと感じており、ぜひ実現してみたいと考えている。

（委員長）

今期で委員長としての任期は終えると思い、自身の考えを具体的な形にしたいと考え、実際に形にできたと思っている。自分が消防団の活動中に参加した戦没者追悼式において、108柱の戦没者の犠牲のもとに現在が成り立っていることを実感したことがある。私たちの時代は、自らの手で作り上げていける時代となった。来期は委員長を退任し、サポートに回りたいと考えている。市民がより生き生きと活動できるようになるためには、市民活動推進課が部に昇格し、市の中核となる位でないといけないとも思うところである。2年間ありがとうございました。